

建災防宮城県支部からのお知らせ

他山の石の事故事例

令和7年3月11日（事故事例速報）

酸欠又は有害ガスか 下水道工事現場で作業員3人が死亡！

令和7年3月7日、秋田県男鹿市で下水道の工事をしていた作業員3人がマンホールの中で意識不明の状態で見つかり、その後死亡した。3人の死因はいずれも「急性循環不全」だった。

事故は、7日午前9時半頃、44歳の男性がマンホールの底（深さ約3・5メートル）で倒れ、救助のためマンホール内に下りた他の2人が相次いで意識を失ったという。3人も防護用のマスクは着用していなかった。

工事を発注した秋田県は7日会見し、事故の原因については「3人が硫化水素などの有毒なガスを吸ったか、酸素が足りなくなったのかその2つのどちらかと考えられるがまだ分からない」と話している。同県によると、この日は取り換えた下水管の通水テストを実施。現場から約2キロ離れたポンプ場から水を流した直後に男性が倒れたとみられるという。秋田県警は、作業前の検査でマンホール内に異常がなかったことから、通水テストの際に酸素濃度が低下したり、硫化水素などの有毒ガスが発生した可能性もあるとみている。

（マスコミ報道より 3.11 時点）

酸欠・硫化水素事故の防止徹底を！

酸素欠乏症・硫化水素中毒での死亡事故は、毎年発生しており、一度発生すると救出作業中の方も被災する等甚大な被害につながる危険性があります。

2004年～2023年で、酸素欠乏症で118名（うち建設業27名）、硫化水素中毒で68名（うち建設業15名）が亡くなっています。

酸欠は、換気不良が発生しやすい閉鎖空間等で、金属サビや細菌類の酸素消費、炭素ガスの発生や、酸素以外の気体に置き換えられて発生する場合があります。

建設業では、井戸・ずい道、換気が悪い暗渠・ピット等の内部作業や、タンク、プラント等の設備等で酸欠危険場所が広範囲に想定されます。裏面の点検表を参考に、当該事故のリスクの確認、対策の徹底をお願いします。



建災防宮城県支部 HP

建設業労働災害防止協会 宮城県支部

〒980-0824 仙台市青葉区支倉町2-48 宮城県建設産業会館5階

電話 022-224-1797 Fax 022-265-5604

**酸素欠乏症・硫化水素中毒は、
致死率が高く非常に危険** ですが、
作業環境測定、換気、送気マスク等の呼吸用保護具の使用
などの措置を適正に実施すれば発生を防ぐことができます。

防 止 対 策	チェックリスト
<p>酸素欠乏危険場所の事前確認 タンク、マンホール、ピット、槽、井戸、たて坑などの内部が酸素欠乏危険場所に該当するか、作業中に酸素欠乏空気及び硫化水素の発生・漏洩・流入等のおそれはないか、事前に確認すること。</p>	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
<p>立入禁止の表示 酸素欠乏危険場所に誤って立ち入ることのないように、その場所の入口などの見やすい場所に表示すること。</p>	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
<p>作業主任者の選任 酸素欠乏危険場所で作業を行う場合は、酸素欠乏危険作業主任者を選任し、作業指揮等決められた職務を行わせること。</p>	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
<p>特別教育の実施 酸素欠乏危険場所において作業に従事する者には、酸素欠乏症、硫化水素中毒の予防に関すること等の特別教育を実施すること。</p>	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
<p>測定の実施 測定者の安全を確保するための措置を行い、酸素濃度、硫化水素濃度の測定を行うこと。</p>	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
<p>換気の実施 作業場所の酸素濃度が 18% 以上、硫化水素濃度が 10ppm 以下になるよう換気すること。 継続して換気を行うこと。 酸素欠乏空気、硫化水素の漏洩・流入がないようにすること。</p>	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
<p>保護具の使用 換気できないとき又は換気しても酸素濃度が 18% 以上、硫化水素濃度が 10ppm 以下に出来ないときは、送気マスク等の呼吸用保護具を着用すること。 保護具は同時に作業する作業者の人数と同数を備えておくこと。</p>	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
<p>二次災害の防止 酸素欠乏災害が発生した際、救助者は必ず空気呼吸器等又は送気マスクを使用すること。 墜落のおそれのある場合には安全帯を装備すること。 救助活動は単独行動をとらず、救助者と同じ装備をした監視者を配置すること。</p>	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO